

1996年9月1日 第449号

発行・早稲田学生新聞会

〒169 東京都新宿区西早稲田1-8-21

TEL 03(3207)8015 毎月2回発行

昭和47年1月19日第三種郵便物認可

一部百円

早稲田学生新聞

THE WASEDA STUDENT TIMES

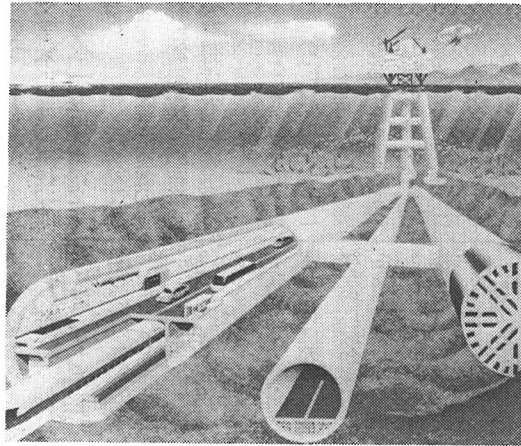
夢のない国土計画

・なるほど博士の 経済講座・

「人と自然が共存する、安全で質の高い居住環境を」二〇一〇年を目標とする新しい国土開発ビジョン(全国総合開発計画)が十一月にまとまる予定だが、一部報道でもれてくる中身を見るかぎりでは、味気ないというか、つまらないというか、全夢を与えてくれる内容とは思えないといった技術的な話が目立

い。どんな内容かというと、①太平洋ベルト地帯以外に新しい国土軸を作る(例えば日本海側に新幹線を行きわたらせる)②どの地域からでも東アジアに一日で行けるように空港や港湾を作る③全国どこからでも内外に直接アクセスできる情報通信体系を作る(光ファイバー網を整備する)——というのが

そのほか、個人の価値観に応じた暮らしかできるようなにする、農山村の豊かな自然環境を生かして都市と交流できるようにする、といった分かったような分からないような内容や、災害に強い交通体系を構築するといった技術的な話が目立



日韓海底トンネルの完成予想図

閉塞感の打破が不可欠 空港建設より海底トンネルを

つ。ビジョン(構想、理想像)というにふさわしい積極的な内容としては、東京の諸機能を地方に分散し、関西を「文化首都」に、中部を

すきでいく一方だ。この国土を開発するにあたってまず重視すべきことは、全般的に窮屈感・閉塞感を解消させること、そして三十八万平方キロという狭い国土にこだわらないことだ。

それというのも、アジアの急速な発展を背景に、外国企業が日本を素通りしてアジアの都市に相次いで拠点を移す(これをジャパン・パッシングという)といった事態が起きている。だから、不人気の日本を再興するためにも、次期国土計画にアジアを視野に入れた具体的なアクション・プログラムを検討する必要があるのである。

例えば、九州と釜山(韓国)間に海底トンネル(日韓トンネル)を掘り、日本を大陸と連続性にするという構想(すでに自民党は研究に乗り出している)があるが、これなどは、ユーロトンネルを作った大陸の仲間入りを果たした英国を見れば分かるように、グローバリゼーション(地球化)が進む二十一世紀には実現すべき巨大プロジェクトといえる。

このまま近隣諸国との交易が飛行機や船舶に依存したままの状態だと、ギリシャ文明時代に隆盛したクレタ島のように、わが国もいつしか歴史の遺物として忘れ去られる孤島になってしまうかもしれない。

「産業・技術首都」にするといった箇所があるくらいだ。

渋滞、混雑、満員電車…、なにかと身動きの取りにくい息苦しいわが国。緑は消えていくばかりで、国土は